

BEST AVAILABLE COPY

MR 672378

日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1995年 9月29日

出願番号
Application Number:

平成 7年特許願第252762号

出願人
Applicant(s):

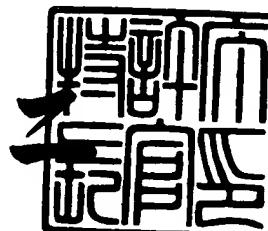
宇部興産株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1996年 2月 9日

特許庁長官
Commissioner
Patent Office

清川佑



【書類名】 特許願

【整理番号】 KT-P950915

【提出日】 平成 7年 9月29日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B22D 17/00
B22D 21/06

【発明の名称】 半溶融A1-Mg合金の製造方法

【請求項の数】 9

【発明者】

【住所又は居所】 山口県宇部市大字小串字沖の山1980番地
宇部興産株式会社 宇部機械・エンジニアリング
アーリング 事業所内

【氏名】 佐藤 智

【発明者】

【住所又は居所】 山口県宇部市大字小串字沖の山1980番地
宇部興産株式会社 宇部機械・エンジニアリング
アーリング 事業所内

【氏名】 安達 充

【特許出願人】

【識別番号】 000000206

【氏名又は名称】 宇部興産株式会社

【代表者】 長廣 真臣

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012254

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特平 7-252762

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 半溶融A1-Mg合金の製造方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 結晶核を有する液相線温度以上の液体状態のA1-Mg合金、または、結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態のA1-Mg合金を、断熱効果を有する断熱容器の中において、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することにより、液中に微細な初晶を該合金液中に晶出させることを特徴とする加圧成形用の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項2】 結晶核の生成方法は、液相線温度に対して過熱度を300℃未満に保持された合金溶湯を該合金の融点よりも低い温度の治具の表面に接触させることとする請求項1記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項3】 溶湯に接触させる治具は、金属製治具または非金属製治具、あるいは半導体を含む非金属材料を表面に塗布した金属製治具、もしくは半導体を含む非金属材料を複合させた金属製治具とし、かつ、該治具の内部あるいは外部から該治具を冷却させることができるようにした請求項2記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項4】 結晶核の生成を、治具または断熱容器のいずれか、もしくは両方に接触するA1-Mg合金溶湯に振動を与えることとする請求項1記載または請求項2記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項5】 A1-Mg合金を、最大固溶限以下のMgを含む亜共晶A1-Mg合金とした請求項1記載または請求項2記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項6】 A1-Mg合金を、Siを0.3%～2.5%を添加したA1-Mg合金とした請求項5記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項7】 A1-Mg合金を、Beを0.0005%～0.003%添加したA1-Mg合金とした請求項5記載または請求項6記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項8】 A1-Mg合金を、Bを0.001%～0.02%、Tiを0.005%～0.3%添加したA1-Mg合金とした請求項5記載ないし請求

項7記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【請求項9】 液相線温度に対する過熱度を100℃未満に保持したA1-Mg合金溶湯を、治具を使用することなく直接断熱容器に注ぐ請求項8記載の半溶融A1-Mg合金の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は半溶融A1-Mg合金の製造方法に係り、特に、結晶核を有する液相線温度以上の液体状態のA1-Mg合金、または、結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態のA1-Mg合金を、断熱効果を有する断熱容器の中において、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することにより、液中に微細な初晶を発生させる加圧成形用の半溶融A1-Mg合金の製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

チクソキャスト法は、従来の铸造法に比べて铸造欠陥や偏析が少なく、金属組織が均一で、金型寿命が長いことや成形サイクルが短いなどの利点があり、最近注目されている技術である。この成形法(A)において使用されるビレットは、半溶融温度領域で機械搅拌や電磁搅拌を実施するか、あるいは加工後の再結晶を利用することによって得られた球状化組織を特徴とするものである。これに対して、従来铸造法による素材を用いて半溶融成形する方法も知られている。これは、例えば、等軸晶を発生しやすいマグネシウム合金においてさらに微細な結晶を生じせしめるためにZrを添加する方法(B)や炭素系微細化剤を使用する方法(C)であり、またアルミニウム合金において微細化剤としてA1-5%Ti-1%B母合金を従来の2倍～10倍程度添加する方法(D)であり、これらの方

法により得られた素材を半溶融温度域に加熱し初晶を球状化させ成形する方法である。また、固溶限以下の合金に対して、固相線近くの温度まで比較的急速に加熱した後、素材全体の温度を均一にし局部的な溶融を防ぐために、固相線を越えて材料が柔らかくなる適当な温度まで緩やかに加熱して成形する方法(E)が知

られている。

一方、ビレットを半溶融温度領域まで昇温し成形する方法と異なり、球状初晶を含む融液を連續的に生成し、ビレットとして一旦固化することなく、そのままそれを成形するレオキャスト法（F）が知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述した（A）の方法は攪拌法や再結晶を利用する方法のいずれの場合も煩雑であり、製造コストが高くなる難点がある。また、Al-Mg合金のようなアルミニウム合金においては、単に微細化剤を添加するだけでは、結晶粒の大きさは500μm程度であり、100μm以下の微細な結晶粒の組織を得ることは容易ではない。このため、多量に微細化剤を添加する方法（D）があるが、微細化剤が炉底に沈降しやすく工業的には難しく、かつコストも高い。さらに、（E）の方法では固相線を越えてから緩やかに加熱して素材の均一加熱と球状化を図ることを特徴とするチクソ成形法が提案されているが、通常のデンドライト組織を加熱してもチクソ組織（初晶デンドライトが球状化されている）には変化しない。

しかも（A）～（E）のいずれのチクソ成形法においても半溶融成形するために、一旦液相を固化しそのビレットを再度半溶融温度領域まで昇温する必要があり、従来鋳造法に比べてコスト高になる。また、（F）の方法では、球状の初晶を含む融液を連續的に生成供給するため、コスト的、エネルギー的にもチクソキャストより有利であるが、球状組織と液相とからなる金属原料を製造する機械と最終製品を製造する鋳造機との設備的連動が煩雑である。

本発明は、上述の従来の各方法の問題点に着目し、ビレットを使用することなく、しかも、煩雑な方法をとることなく、簡便容易に、加圧成形するための微細な初晶を有する半溶融Al-Mg合金の製造方法を提供することを目的とするものである。

【0004】

【問題点を解決するための手段】

このような問題点を解決するために、本発明においては、第1の発明では、結

晶核を有する液相線温度以上の液体状態の $A_1 - Mg$ 合金、または、結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態の $A_1 - Mg$ 合金を、断熱効果を有する断熱容器の中において、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ 5 秒間～60 分間保持することにより、液中に微細な初晶を該 $A_1 - Mg$ 合金液中に晶出させることとした。

また、第 2 の発明では、第 1 の発明における結晶核の生成方法を、液相線温度に対して過熱度を 300°C 未満に保持された合金溶湯を該合金の融点よりも低い温度の治具に接触させることとした。

さらに、第 3 の発明では、第 2 の発明の治具を、金属製治具または非金属製治具、あるいは半導体を含む非金属材料を表面に塗布した金属製治具、もしくは半導体を含む非金属材料を複合させた金属製治具とし、かつ、該治具の内部あるいは外部から該治具を冷却させることができるようにした。

また、第 4 の発明では、結晶核の生成を、治具または断熱容器のいずれか、もしくは両方に接触する $A_1 - Mg$ 合金溶湯に振動を与えることとした。

第 5 の発明では、第 1 の発明や第 2 の発明の $A_1 - Mg$ 合金を、固溶限以下の Mg を含む亜共晶 $A_1 - Mg$ 合金とした。

また、第 6 の発明では、第 5 の発明の亜共晶 $A_1 - Mg$ 合金を、Si を 0.3%～2.5% 添加した $A_1 - Mg$ 合金とした。

また、第 7 の発明では、第 5 の発明や第 6 の発明の亜共晶 $A_1 - Mg$ 合金を、Be を 0.0005%～0.003% 添加した $A_1 - Mg$ 合金とした。

さらに、第 8 の発明では、第 5 の発明ないし第 7 の発明の亜共晶 $A_1 - Mg$ 合金を、B を 0.0005%～0.01%、Ti を 0.003%～0.3% 添加した $A_1 - Mg$ 合金とした。

そして、第 9 の発明では、第 8 の発明の亜共晶 $A_1 - Mg$ 合金溶湯を、液相線温度に対する過熱度を 100°C 未満に保持し、治具を使用することなく直接断熱容器に注ぐようにした。

【0005】

【発明の実施の形態】

結晶核を有する液相線以上の液体状態の $A_1 - Mg$ 合金や結晶核を有する成形

温度以上の固液共存状態のA1-Mg合金を、断熱効果を有する断熱容器の中で成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することによって、液中に微細な粒状の初晶を発生させた半溶融A1-Mg合金が得られる。この半溶融状態の該合金を成形用金型に供給して加圧成形することにより、均質な組織の成形体が得られる。

【0006】

【実施例】

以下、図面に基づいて本発明の実施例の詳細について説明する。図1～図6は本発明の実施例に係り、図1はA1-Mg合金の半溶融金属の製造から成形までを示す工程説明図、図2は粒状初晶の生成から成形までの工程説明図、図3は図2に示した各工程の金属組織模式図、図4はA1-Mg2元合金平衡状態図、図5は本発明例の金属組織を示す顕微鏡写真の模写図、図6は比較例の金属組織を示す顕微鏡写真の模写図である。

【0007】

本発明においては、図1、図4に示すように、まず、

(1) 液相線に対して過熱度を300°C未満に保持したA1-Mg合金の溶湯を

、その合金の融点よりも低い温度の治具に接触させて液中に結晶核を発生させ、
あるいは、

(2) 液相線温度に対する過熱度は100°C未満に保持した結晶核の生成を促す元素を含むA1-Mg合金の溶湯を、治具を使用せず直接に断熱効果を有する断熱容器に注ぎ、その断熱容器内において、所定の液相率まで、液相線温度以下でかつ共晶温度あるいは固相線温度より高い温度の状態に5秒間～60分間保持することで微細な粒状の初晶を多数発生させ、所定の液相率の半溶融A1-Mg合金を得る。

所定の液相率とは、加圧成形に適する液相の量比を意味し、ダイカスト鋳造、スクイズ鋳造などの高圧鋳造では液相率は20%～90%、好ましくは30%～70%（30%未満では素材の成形性が劣り、70%以上では素材が柔らかいためハンドリングが難しいばかりでなく、均一な組織が得難くなる）とし、押出法や鍛造法では0.1%～70%、好ましくは0.1%～50%（50%以上では

組織の不均一が生じる惧れがある) とする。

また、本発明でいう断熱容器とは、金属性容器または非金属性容器とするか、あるいは半導体を含む非金属材料を表面に塗布した金属性容器、もしくは半導体を含む非金属材料を複合させた金属性容器とし、かつ、該容器の内部あるいは外部から該容器の加熱または冷却が可能なものである。

【0008】

具体的には以下のとおりの手順により作業を進める。図2および図3の工程[1]においてラドル10内に入れられた完全液体である金属Mを工程[2]において、(a) 冷却用治具20を用いて低温溶湯(必要に応じて結晶核生成を促進する元素を添加)から結晶核を発生させ断熱効果を有するセラミック製容器30(セラミックコーティング容器30A)に注ぐ、または、(b) 微細組織生成促進元素を含む融点直上の低温溶湯を直接、断熱効果を有する断熱容器30(または30A)に注ぐ、のいずれかの方法により多数の結晶核を含む液相線直下の合金を得る。

つぎに工程[3]において、該断熱容器30(または30A)において該合金を半溶融状態で保持する。この間、導入された結晶核から超微細な非デンドライト状初晶が生成し([3]-a)、融体の温度低下に伴う固相率の増加につれて粒状の初晶として成長する([3]-c)。このようにして得られた所定の液相率を有する金属Mを、例えば[3]-dのようにダイキャストの射出スリーブ40に挿入した後ダイカストマシンの金型キャビティ50a内で加圧成形して成形品を得る。

【0009】

図1、図2、図3に示す本発明と従来のチクソキャスト法、レオキャスト法の違いは図より明らかである。すなわち、本発明では従来法のように、半溶融温度領域で晶出した初晶を機械攪拌や電磁攪拌で強制的に破碎微細化することではなく、液中に導入された結晶核を起点として半溶融温度領域での温度低下および共晶温度での保持時間とともに晶出、成長する多数の初晶が合金自身が持っている熱量により(必要に応じて外部から加熱保持されることも有りうる)連続的に粒状化されるものであり、また、チクソキャスト法におけるビレットの再昇温によ

る半溶融化的工程が省かれているため極めて簡便な方法である。

上述した各工程、すなわち図1に示す冷却用治具20への注湯工程、初晶の生成、粒状化工程のそれぞれにおいて設定された鋳造条件、粒状化条件および第2の発明、第6の発明、第7の発明、第8の発明および第9の発明で示した数値限定理由について以下に説明する。

【0010】

鋳造温度が融点に対して300°C以上高ければ、あるいは治具20の表面温度が融点以上の場合は、

- (1) 結晶の核発生が少なく、しかも、
- (2) 断熱効果を有する断熱容器に注がれた時の溶湯Mの温度が液相線よりも高いために残存する結晶核の割合も低く、初晶のサイズが大きくなる。

このため、鋳造温度は液相線に対する過熱度が300°C未満とし、治具の表面温度は、合金の融点よりも低くする。なお、液相線に対する過熱度を100°C未満とすることにより、また、治具20の温度を合金Mの融点よりも50°C以上低くすることにより、より微細な初晶サイズとすることができる。治具20に溶湯Mを接触させる方法としては、治具の表面を溶湯Mを移動させる場合（傾斜した治具20へ溶湯を流す）と溶湯中を治具20が移動する場合の2種類がある。なお、ここで言う治具とは、溶湯が流下する際に冷却作用を溶湯に与えるものを言うが、これに代えて、例えば、給湯機の筒状パイプを使用してもよい。液相線直下に低下した溶湯を保持する断熱容器30は、発生した初晶を粒状にし所定時間後に希望する液相率にするために、断熱効果を有するものとする。その材質は限定されるものではなく、保温性を有し、しかも、溶湯との濡れ性が悪いものが好ましい。また、通気性のあるセラミック容器を断熱容器30として使用する場合には、半溶融合金の酸化を防止するために、容器外部を所定の雰囲気（不活性雰囲気、減圧雰囲気など）にすることができる。また、酸化防止を図るためにあらかじめ金属溶湯にBeを添加することが望ましい。なお、断熱容器30の形状は筒状に限定されるものではなく、その後の成形法に適した形状が可能である。また、断熱容器でなくセラミック製の射出スリーブへ直接投入するようにしてもよい。その断熱容器30での保持時間が5秒未満であれば、希望する液相率を示す温

度にすることが容易ではなく、また粒状の初晶を生成することが困難である。

一方、保持時間が60分を越えると生成した粒状初晶や共晶組織が粗くなり機械的性質が低下する。このため保持時間は5秒～60分とする。なお、高圧铸造では、成形直前の液相率が20%未満であれば成形時の変形抵抗が高く良好な品質の成形品を得ることが容易でない。また、90%を越えると均一な組織を有する成形品を得ることができない。このため、前述したとおり成形時の液相率は20%～90%とすることが好ましい。さらに、実質の液相率を30%～70%にすることにより、さらに均質でかつ高品質の成形材を容易に加圧成形できる。加圧成形する手段としては、スクイズ铸造法やダイキャスト铸造法に代表される高圧铸造法に限定されるものではなく、押出法、鍛造法などの加圧成形する種々の方法が含まれる。

【0011】

溶湯Mを接触させる治具20は、溶湯の温度を低下させることができるものであればその材質を限定するものではないが、特に熱伝導率の高い銅、銅合金、アルミニウム、アルミニウム合金などの金属で、しかも一定の温度以下に維持できるように冷却管理された治具20は結晶核を多く生成するので好ましい。なお、溶湯Mが治具20に接触した時に固体状に金属が治具20に付着するのを防ぐために非金属材料を塗布するのは効果的である。塗布する方法としては、機械的、化学的、あるいは物理的方法のいずれでも構わない。

【0012】

Siは、生成した粒状初晶の球状化を促進するために添加する。Siは、0.3%未満では粒状化促進効果が期待できず、また2.5%を越えて添加しても機械的性質を悪くするばかりで球状化の効果をそれ以上期待できないため、Siは0.3%～2.5%とする。

治具20により溶湯Mを冷却する過程で、特にAl-Mg合金のような酸化しやすい合金では、酸化物の巻き込みが発生したり、溶湯が樋状の冷却治具を流下する途中で厚い酸化皮膜を形成して流動性が低下する。このような溶湯の酸化を防止するために、Beを添加する。Beは、0.0005%未満では酸化防止効果は小さく、0.003%を越えて添加してもそれ以上の酸化防止効果は期待で

きずコストが高くなるので、Beは0.0005%~0.003%とする。

治具20に溶湯Mを接触させることにより結晶核を多数含む液相線以下の半溶融合金を得ることは可能であるが、(1)さらに多数の結晶核を発生させ均一で微細な組織を得るために、あるいは、(2)液相線に対する過熱度を100°C未満にした溶湯を用いて、治具に接触させることなく結晶核を多数含む液相線以下の半溶融合金を得るために、Ti, Bを添加する。Tiは、0.005%未満では微細化効果は小さく、0.3%を越えれば粗大なTi化合物を生じ延性が低下するので、Tiは0.005%~0.3%とする。Bは、Tiと相まって微細化を促進するが、0.001%未満であれば微細化効果は小さく、0.02%を越えて添加してもそれ以上の効果を期待できないので、0.001%~0.02%とする。

なお、本発明のAl-Mg合金は、強度改善のために、1%以下のMnおよび0.5%以下のCuを添加することができる。

治具20を用いずに微細な初晶を得る場合には、液相線に対する過熱度を100°C未満にするのは、断熱効果を有する断熱容器30に注いだ合金を、結晶核を有する液体状態、または結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態にするためである。注がれた断熱容器30内の溶湯の温度が高ければ、一度生成した結晶核の再溶解あるいは初晶の粗大化が起こり、希望する半溶融組織が得られない。また、所定の液相率まで温度が低下するために時間がかかりすぎ能率が悪く、注がれた溶湯Mの湯面が酸化されるため不都合である。

表1に半溶融金属の製造条件および組織観察による評価の結果を示す。

【0013】

【表1】

No.	合金組成	鋳温 (°C)	造度	冷却具 冶具 有無	冷 却 温 (°C)	容 器 内 メ タ ル 度 (°C)	保 持 時 間 (分)	内 部 偏 折	平 初 均 粗 大 小 (μ m)	備 考	
										均 粗 大 小 (μ m)	内部偏折
本 発 明 例	1 Al-5%Mg	660	有	35	634	4	○	105			
	2 Al-5%Mg	660	有	45	635	4	○	75	0.015%Ti, 0.003%B添加		
	3 Al-5%Mg-2.5%Si	650	有	35	624	4	○	80	0.015%Ti, 0.003%B添加, 融点626°C		
	4 Al-10%Mg	630	有	45	605	4	○	95			
	5 Al-5%Mg	640	無	—	625	4	○	100	0.1%Ti, 0.01%B添加		
	6 Al-10%Mg	610	無	—	597	3	○	95	0.1%Ti, 0.01%B添加		
	7 Al-5%Mg	660	有	30	635	4	○	105	振動(100Hz, 振幅0.1mm)		
	8 Al-5%Mg	660	有	27	633	4	○	80	水冷冷却治具使用		
比 較 例	9 Al-5%Mg	660	有	650	640	8	×	450	治具の温度が高い		
	10 Al-10%Mg	950	有	35	675	14	×	500	鋳造温度が高い		
	11 Al-5%Mg	660	有	40	635	70	○	320	保持時間が長い		
	12 Al-5%Mg	660	有	40	635	0.03	×	70	保持時間が短い, 液相率高い		
	13 Al-5%Mg	680	無	—	650	—	×	500	常温金属製(非断熱)容器使用		

Al-5%Mg 融点 631°C *1 デンドライト状の初晶
Al-10%Mg 融点 602°C *2 粒状+デンドライト状の初晶

内部偏析: ○少ない, ×多い

【0014】

比較例9では、溶湯Mを接触させる治具20の温度が高すぎるために結晶核の

発生が少なく、このために微細な初晶が得られず、粗大な初晶となる。比較例10では、鋳造温度が高すぎるために、セラミック製容器30内において残存する結晶核がほとんどなく、比較例9と同様な現象を示す。比較例11では、保持時間が長いために液相率が少なく成形には適さない。また、初晶サイズも大きい。比較例12では、セラミック容器30内での保持時間が短くしかも液相率が高いために、粗大な初晶しか得られず、また液相率が高いために成分偏析が多く発生する。比較例13は、高温溶湯を直接断熱容器へ注ぎそのまま凝固させたものであり、図6に示すようにデンドライト状の粗大な初晶が多く見られる。

一方、本発明例1～8では、図5に示すような、加圧成形に適する約100μm以下の微細な粒状の初晶を有する均質な組織が得られる。

【0015】

【発明の効果】

以上説明したことからも明らかなように、本発明に係る半溶融A1-Mg合金の製造方法では、(1)結晶核を有する液相線温度以上の液体状態の合金、または、結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態の合金を、断熱効果を有する断熱容器の中において、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することにより、あるいは(2)液相線温度に対して過熱度を300℃未満に保持された合金溶湯を該合金の融点よりも低い温度の治具に接触させることにより結晶核を発生させて、微細かつ粒状化した初晶を該合金の液中に発生させ、所定の液相率まで保持する。その後半溶融状態の該合金を成形用金型に供給して加圧成形することにより、従来の機械攪拌法、電磁攪拌法によらず、簡便容易に、かつ、低コストで微細かつ粒状の組織を有する成形体が得られる。

また、液相線温度に対する過熱度は100℃未満に保持した結晶核の生成を促す元素を含むA1-Mg合金溶湯を治具を使用せず直接に、断熱容器の中に注ぎ、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することにより、同様に、微細かつ粒状化した初晶を発生させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係るA1-Mg合金の半溶融金属の成形方法を示す工程説明図である

【図2】

本発明に係る粒状初晶の生成から成形までの工程説明図である。

【図3】

図2に示した各工程の金属組織模式図である。

【図4】

本発明に係るA1-Mg2元系平衡状態図である。

【図5】

本発明の金属組織を示す顕微鏡写真である。

【図6】

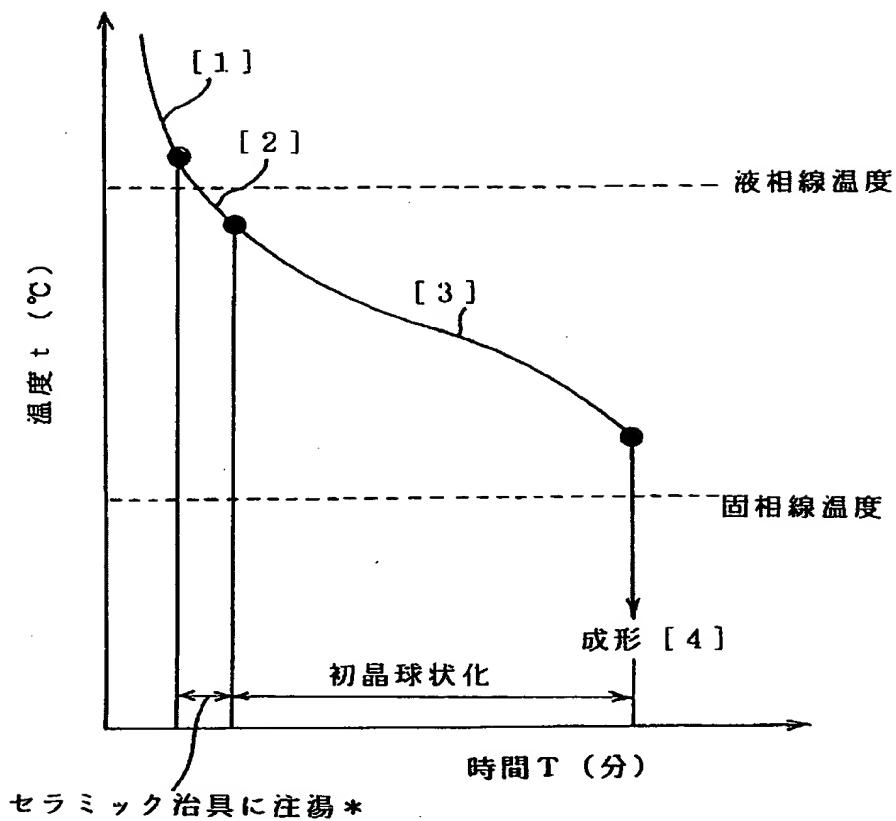
比較例の金属組織を示す顕微鏡写真である。

【符号の説明】

- 10 ラドル
- 20 治具
- 30 断熱容器（セラミック製容器）
- 30A セラミックコーティング金属容器
- 40 射出スリーブ
- 50 金型
- 50a 金型キャビティ
- M 金属（溶湯）
- t 温度
- T 時間

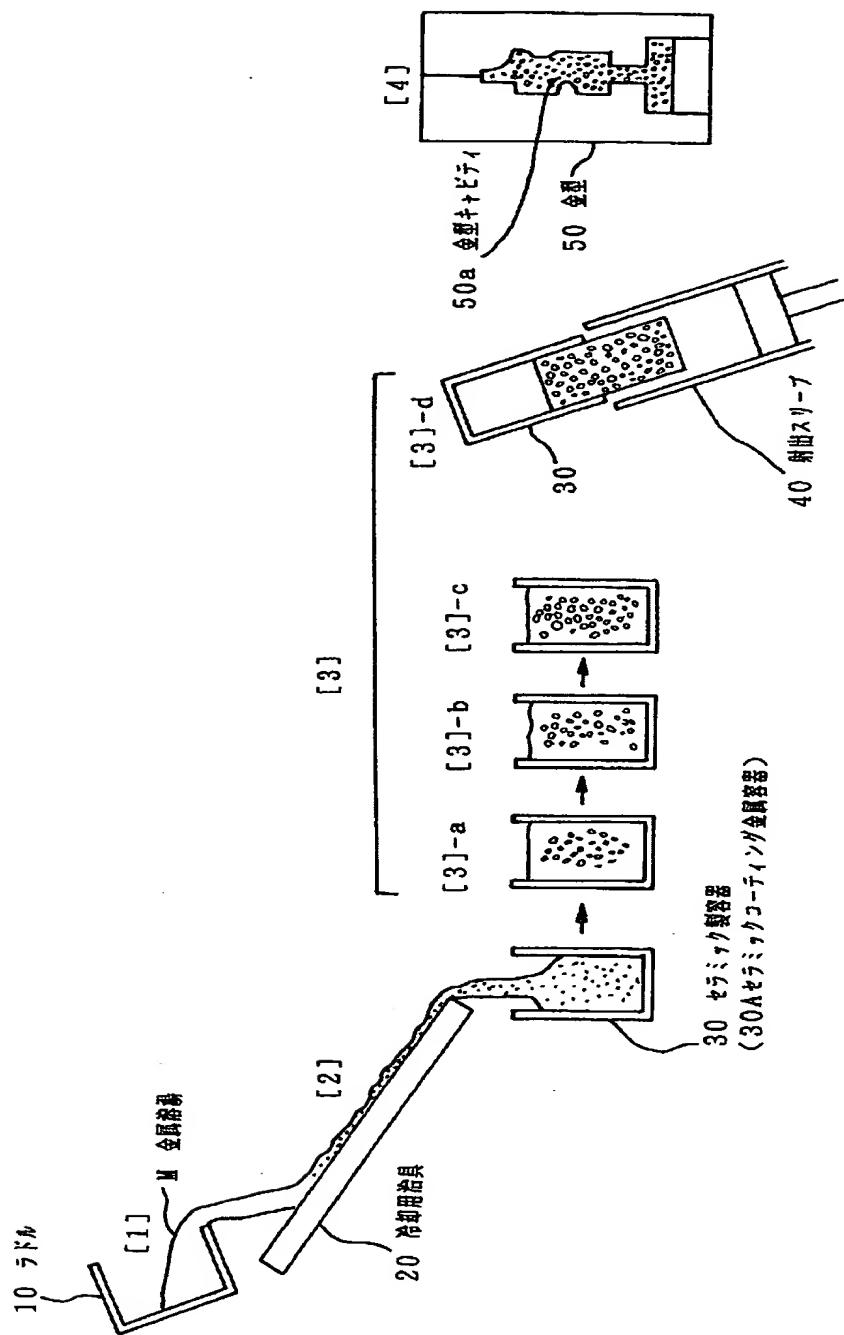
【書類名】 図面

【図1】

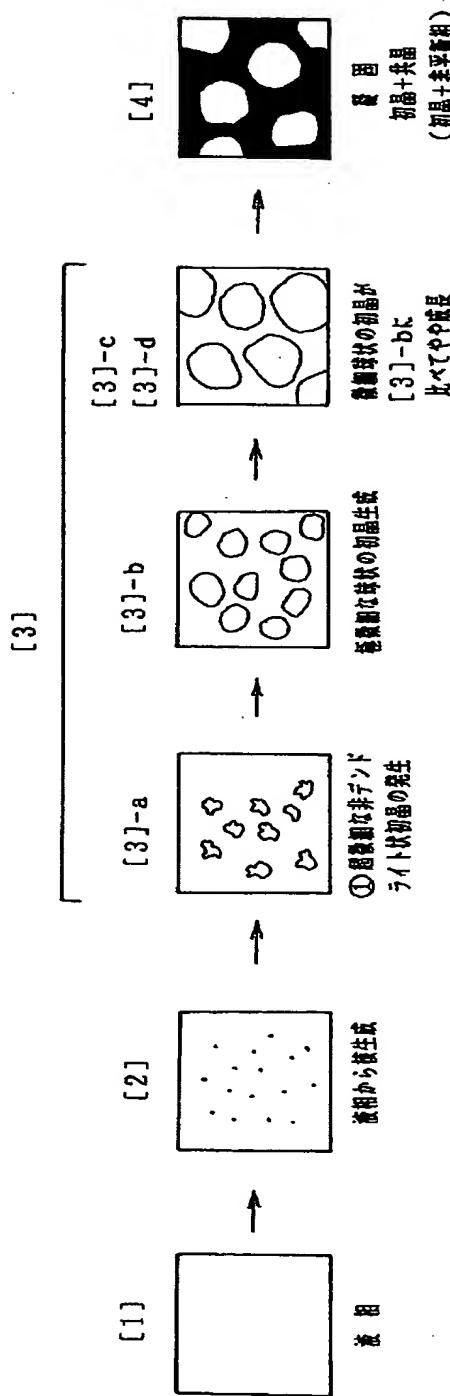


*冷却治具を使用する場合と
使用しない場合がある

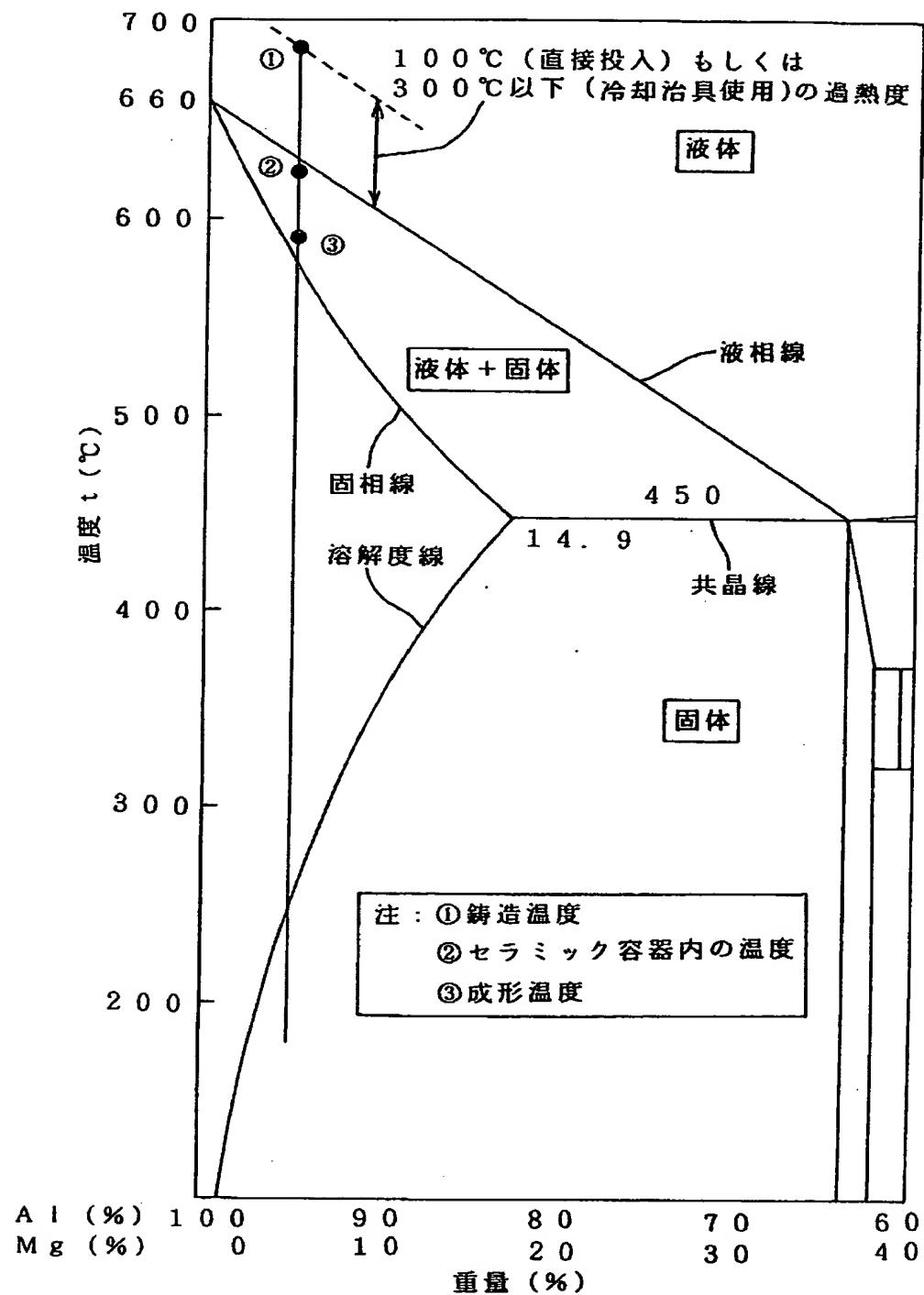
【図2】



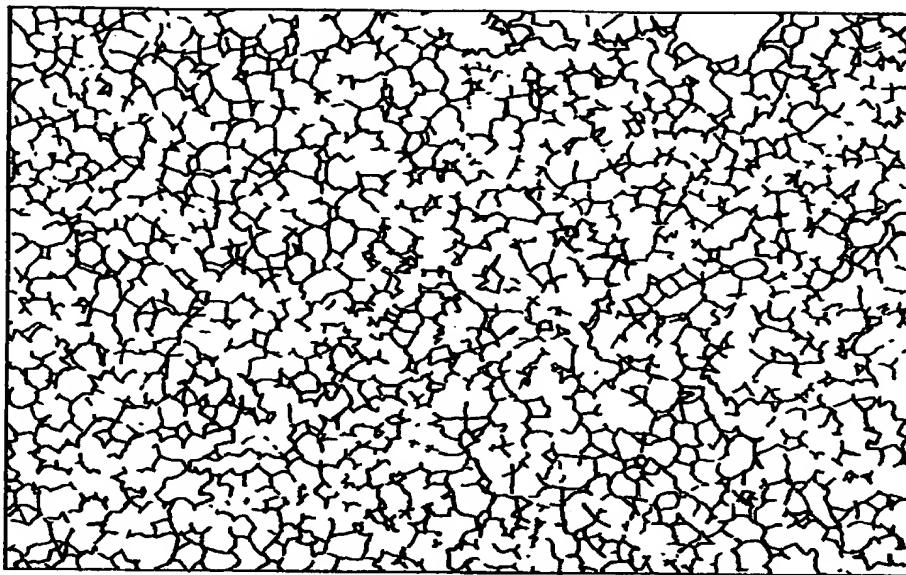
【図3】



【図4】

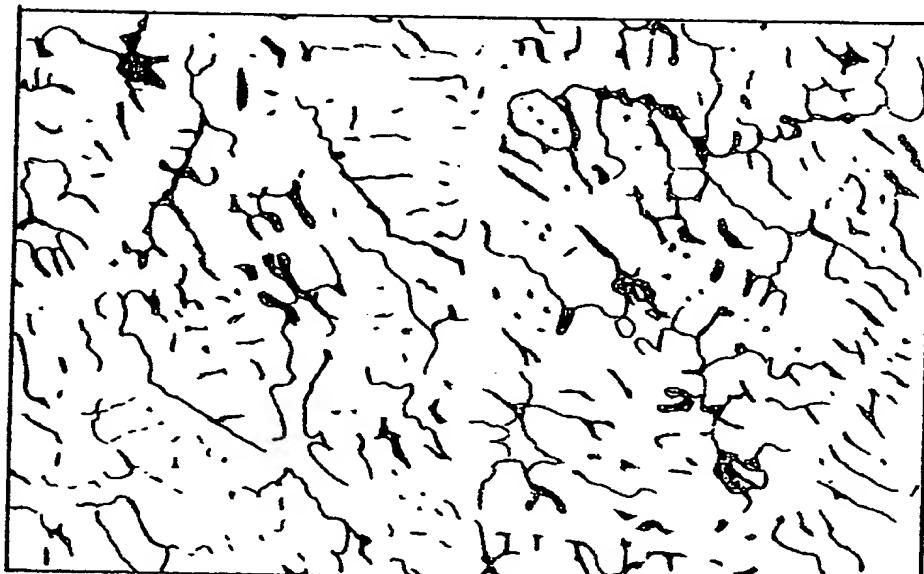


【図5】



500 μ m

【図6】



500 μ m

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来の機械攪拌法や電磁攪拌法によらず、簡便容易に、かつ、低コストで微細かつ球状のチクソ組織を有する成形体が得られる半溶融A1-Mg合金の製造方法を提案するものである。

【解決手段】 結晶核を有する液相線温度以上の液体状態の半溶融A1-Mg合金、または、結晶核を有する成形温度以上の固液共存状態の半溶融A1-Mg合金を、断熱効果を有する断熱容器の中において、所定の液相率を示す成形温度まで冷却しつつ5秒間～60分間保持することにより、液中に微細な初晶を該半溶融A1-Mg合金液中に晶出させ、該半溶融A1-Mg合金を成形用金型に供給して加圧成形するものである。

【選択図】 図2

【書類名】 職權訂正データ
【訂正書類】 特許願

＜認定情報・付加情報＞

【特許出願人】 申請人
【識別番号】 000000206
【住所又は居所】 山口県宇部市西本町1丁目12番32号
【氏名又は名称】 宇部興産株式会社

出願人履歴情報

識別番号 [000000206]

1. 変更年月日 1990年 8月28日

[変更理由] 新規登録

住 所 山口県宇部市西本町1丁目12番32号

氏 名 宇部興産株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.